

がんプロ大学院生募集中!

コース概要

研究科	医学薬学総合研究科
専攻名	生命医療学専攻
養成する専門分野	病理専門医
人数	若干名
修業年	4年（長期履修制度あり）
授与する学位	博士（医学）

取得が見込まれる資格

認定学会名	国家資格
資格名	死体解剖保存法による死体解剖資格
資格条件	厚生労働省ホームページを参照

認定学会名	日本専門医機構
資格名	病理専門医
資格条件	日本病理学会ホームページを参照

認定学会名	日本臨床細胞学会
資格名	細胞診専門医
資格条件	日本臨床細胞学会ホームページを参照

※本パンフレットに記載されている情報は、令和8年5月現在のものです。最新の情報については、表紙に記載の担当窓口までお問い合わせください。

がんプロフェッショナル養成プラン 病理診断科育成コース

「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランとは

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、生涯のうちに約2人に1人が、がんにかかると推計されるなど、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっており、新たながん対策が求められています。

「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランは、大学間の連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成することで、我が国におけるがん医療の一層の推進を目的としています。

和歌山県立医科大学は、大阪大学を中心に、兵庫県立大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、森ノ宮医療大学と共同でこの養成プランを実施しており、これら6大学がそれぞれの特徴を生かして連携することにより、がん専門医療人材を養成し、地域のがん医療の向上を図ることを目的としています。

本学には、従来より、緩和医療専門医養成コース、がん薬物療法専門医養成コース、がん看護専門看護師養成コースが設置されていますが、令和5年度には病理診断科育成コース、がん医療ビッグデータ利活用ベーシックコース（インテンシブコース）が、令和6年度よりがんリハビリテーション看護インテンシブコースが、令和7年度には薬学部のがん薬剤師養成コースが新たに開設され、さらに充実した研修内容となっています。

大学院生募集

令和9年度 公立大学法人和歌山県立医科大学
大学院 医学薬学総合研究科（博士課程）
病理診断科育成コース

【募集要項】

1. 入 学 期 日：令和9年4月1日
2. 募 集 人 員：若干名
3. 入学志願者資格：大学の医学を履修する課程を卒業した者、又は令和9年3月までに卒業見込みの者、又は同等以上の学力があると認められた者
4. 出 願 手 続：出願者は、所定の提出書類を取り揃えて本学学生課に提出すること。
5. 学 費 等：入学金 282,000 円 授業料 535,800 円（毎年5月、11月の2回に分納する。）他
6. 受付及び試験
事務取扱場所：〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1
和歌山県立医科大学学生課入試学務班 TEL (073) 441-0702

詳細はホームページでご確認ください。
<https://www.wakayama-med.ac.jp/nyushi/daigakuin-sougou/boshuyoukou.html>



がんの臨床において、病理診断学は欠かすことの出来ない臨床医学の1つで、がんの診断や治療戦略に大きく関わっています。病理診断学を包括する病理学は、疾患の病態を特に形態学の観点から研究を行い、基礎医学と臨床医学の2つの側面を持っています。近年、がん研究は、疾患単位から個々の患者単位へと移ってきていますが、今後、がんの発生や早期発見を目指す上で、がん細胞単位へと進んでいくものと思われます。がんを細胞単位で研究するには、個々の細胞形態を認識する病理学的見地は必須です。

本がんプロの病理診断学コースでは、基礎医学と臨床医学の2つの側面を融合させ、病理学的見地に立って、細胞生物学的解析に基づいたヒトのがんの病態の解明を行い、臨床に還元できる病理医、臨床医、臨床検査技師ならびに研究者の育成を目標としています。

病理学

細胞生物学的解析

核酸／蛋白の解析

細胞単位での解析

臨床病理学的解析

組織細胞形態解析

AI 解析

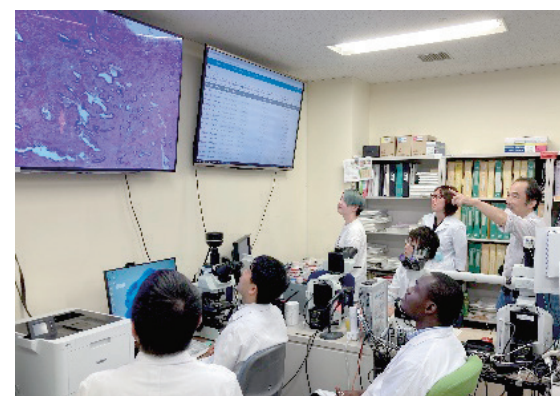
科学的根拠に基づいた医療

コースで育成する人材像

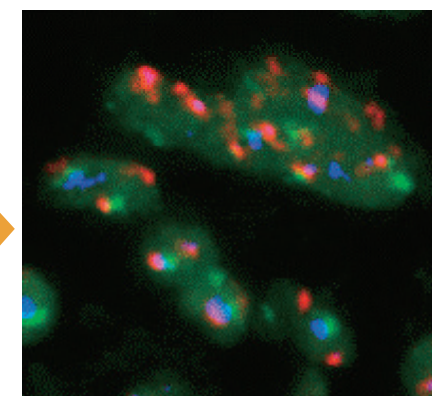
本コースは、病理医、臨床医、臨床検査技師、および病理学に興味がある医療従事者を対象とします。

本教室の基本的な教育方針は、5つの“自”（自主、自立、自律、自由、自覚）を持つ“人”を育てることです。その上で、以下の人材の育成を目標としています。

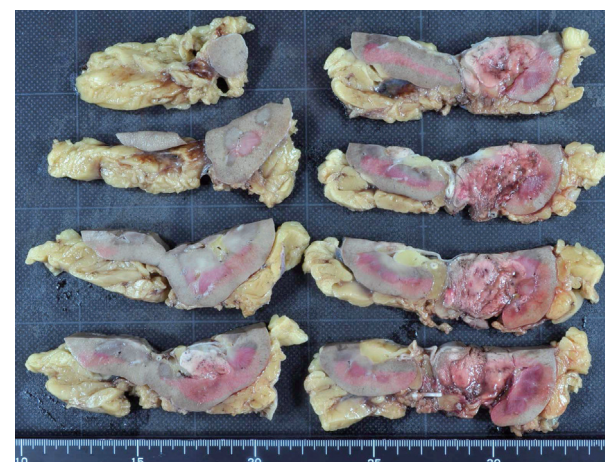
- ✓ 病理学的知識を元に「仮説立案、研究の設計・遂行・解析、論文作成」まで研究を自立して行える。
- ✓ 病理学的知識および研究的マインドを実地臨床に還元できる。



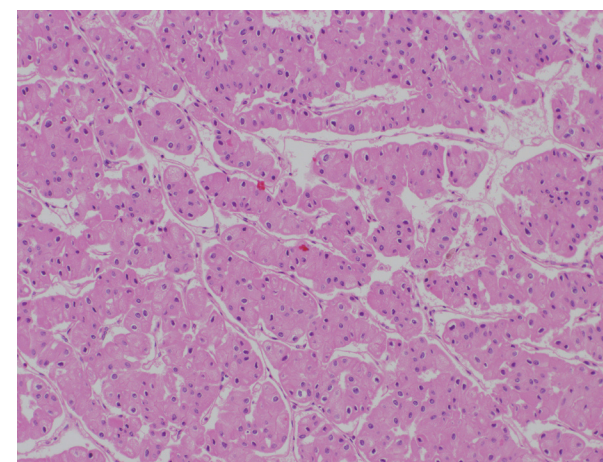
病理カンファレンス



研究例(Chromosome Territory)



臨床検体を用いた形態学的観察を基にした研究（分類困難な好酸性腎腫瘍）



研究内容とスケジュール

1. 研究テーマは、各研究者の希望に合わせ、様々な分野から選択することが可能です。
2. 講義には、大学院全体の系統講義と病理診断学の特別講義があります。
3. 病理診断を自ら実践することにより、病理学と臨床医学を関連付けた知識を修得します。
4. 研究テーマに応じて、NGS や PCR などの核酸解析、免疫組織学的解析、FISH や FRET など蛍光技術を用いた解析、AI（Artificial Intelligence）解析など、様々な研究手法を学びます。
5. 講義履修、病理診断実践および研究は、同時に行っていきます。

スタッフ：准教授 小島 史好

人体病理学教室および病理診断科のスタッフとして、研究ならびに附属病院の病理診断科の病理診断業務を担当しています。研究テーマは、腎腫瘍を中心とした泌尿器領域における組織学的多彩性と臨床病理相関や臨床・病理学的所見と分子病理学的特徴の相関の探索です。国際的にも活躍できる人材を育成するための研究指導を行いたいと考えています。